

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401540		
法人名	有限会社 北邦		
事業所名	グループホームさらさの杜(ユニット2 しおさい)		
所在地	北海道函館市安浦町364番地2		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401540-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症対策として、近年は活動が非常に制限された中での生活となっていますが、施設内では利用者の皆様と季節感を出せるような催しと、お誕生日会等活気ある生活に務めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を、玄関ホール・ユニット内・相談室に掲示し全職員が意識し、理念達成に向けた支援に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは、毎月のボランティア受け入れ地域と利用者とのコミュニケーションに努め、又、地元の小・中・高校生と交流し(インターシップ・お祭り)つながりを大切にしていたが、コロナの関係でこの2年間は外部との交流全ての行事を制限しているため、コロナ感染対策が緩和できた段階で再開して行きたいと考えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティア受け入れ時や運営推進会議の時に地域の方々へ認知症について説明を行っていました。コロナ感染が終息した後には再開したいと考えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回実施し、利用者さんの日常生活の様子(行事等を含む)を報告し、意見交換を行いサービス向上に努めている。(この2年間は、資料を郵送し確認して頂き、後日電話で意見を伺う状態の会議開催となっています)。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出時等で支所を訪問した際に情報提供したり、又地域振興課を訪問し担当職員の協力を得る等で協力関係を築いています。社会福祉協議会主催の地域懇話会等には感染対策を十分に行い参加しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に、身体拘束のない支援を掲げています。身体拘束とは・・・については、研修の内容として取り上げ、定期的に勉強し合い、職員全員が理解できる様に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、施設内の研修会で勉強し、全職員が理解し虐待防止の無い支援に努めています。		

グループホームさらさの杜(ユニット2 しおさい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、施設内研修会で勉強し、制度についてを理解し、必要時は活用出来るように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込時、入所前面接時、入所時の手続きの際に説明し、疑問点や質問を伺い、十分説明し理解を頂いています。身元引受人が不在になり変更する場合などは代理になる方と十分カンファレンスを行い理解して頂き作成しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は、資料送付後意見を電話で確認、ご家族へは、さらさ通信発行し状況報告し意見を電話で確認し、職員全員に周知し運営に反映できる様努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会義・業務会義・職員会議を開催し意見交換する、又、人事評価シートを利用し職員の意向を確認する機会を設けて運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格者証を提示された職員、職員の努力・実績を把握し、役職に昇格した場合には手当発生等でやりがい・向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修会は毎月行い、施設外への研修の機会も案内し出来る限り参加し知識アップ、技術向上に努めています。働きながら資格取得したい職員には勤務調整等に配慮した勤務を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部に出向いての勉強は中々難しい時代なので、インターネット動画を活用した研修会を開催し、技術向上しサービスの質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接を行い、本人とコミュニケーションの時間を設け信頼関係を徐々に築き安心出来る様な関係づくりに努めている。		

グループホームさらさの杜(ユニット2 しおさい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネさんからご本人・ご家族の意向を伺い、入所申込時、入所前面接時で家族とコミュニケーションの時間を設け、困っていることや今後についての意向を確認し、信頼関係を築き安心して頂ける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネからの情報や入所前面接時、本人・家族を交えたカンファレンスの中で意向を確認・課題を見極める等で支援内容を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の生活歴等を把握し、人生の先輩として敬意の気持ちでみんなと支え合い、和やかな関係を築いています。利用者の皆さんに教えて頂く場面も沢山あり、生活に取り入れています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を定期的に報告し、電話で意見を伺う等、又、プラン作成時は電話でご家族の意向を確認し、共に支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部とのつながりは中々難しい時代になってしまいましたので、同地域の利用者同士で会話が弾む様サポートしながら笑顔を引き出せるよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同地域の利用者同士を囲んで昔のお話に笑顔が見られるよう、レクや食事の時間にはホールで一緒に集えるよう声をかけコミュニケーションが図れるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	癌等で長期入院が必要になり、契約が終了した後もこれまでの関係を大切に、支援を必要とする利用者や家族には、気軽に声を掛けて頂き相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のできる事の把握や希望や思いを確認し、それに添った支援をしています。(編み物ができる方、縫い物ができる方、洗濯のたたみものができる方、調理の手伝いができる方等々)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネさんやご家族から基本情報を確認し、一人ひとりのケアに反映出来る様に努めています。		

グループホームさらさの杜(ユニット2 しおさい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態や能力を把握し、できる所は職員と一緒に行う等、能力を発揮できる支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	業務会議、ユニット会議等で定期的にカンファレンスを開催し、本人・家族・スタッフの意見を基に現状に即した介護計画作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子をPCを使用し経過記録に残し、施設内でPC確認できる様に環境を整えており、共有することで実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間の経過に伴う利用者さんの状況の変化に気づき、御家族の希望も取り入れた柔軟な支援に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前浜から採れた海産物をご家族から差し入れあった場合等には、現在の前浜の様子等を利用者の皆さんと一緒に会話しながら、食べる時は笑顔を出せる様な支援に努めています。(地域住民との面会は制限あり、差し入れ時の様子を利用者の皆さんに説明するのみとなっています)。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については家族の意向を確認し、月1回の定期受診や週一回の往診、体調不良時は都度主治医と連絡を取り、指示を仰ぐ等適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが、「何かあった場合には直接主治医・看護師へ連絡しても良い」と、病院との連携が図れており、適切な医療が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には基本情報・日常生活の情報を提供し、主治医・看護長・ご家族を交えたカンファレンスを実施等で病院関係者との関係作りにも努めています。		

グループホームさらさの杜(ユニット2 しおさい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の『看取りに関する指針』については入居時に説明し同意を得ている。実際の看取りの時期に入った時は、ご家族・主治医・スタッフを交えたカンファレンスを何回も持ちチームでの支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修会で緊急時の対応について勉強、緊急時は消防署に連絡し救急車を要請する等、消防との連携も良好で、全職員が対応出来る様努めている。緊急時対応マニュアルを用意し理解できる様定期的に勉強会を設けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年2回、消防立ち会いの下実施している(1回は夜間想定)。その他の風水害・土砂災害・地震災害等については1回/年市指定の避難場所まで避難を実施。施設内研修会でマニュアルに沿って勉強し理解に努めている。避難経路については支所地域振興課へ行き、避難場所・避難経路等を確認し職員へ周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格については、敬意を持って対応する様、プライバシーの保護については施設内研修会で勉強しスタッフ間で注意を徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら利用者の希望を引き出せるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、レク・休息・TV視聴・スポーツ観戦等、自由に過ごせる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の好みを尊重した身だしなみが出来る様支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握しながら代替え食を提供し、又、食事の下ごしらえや後片付けについては、出来る利用者には一緒に手伝って頂く等、楽しみを引き出せる様支援しています。		

グループホームさらさの杜(ユニット2 しおさい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量や栄養にバランスを考慮し提供しています。おやつ時にはできる限り利用者の好みを取り入れ、時には作る時に手伝ってもらう等し、提供するよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・就寝時の口腔ケアは毎回欠かさず行っています。自分でできる利用者には、職員が付き添いを行う等、できる所を活かした口腔ケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声がけしトイレ誘導することでオムツでの排泄を減らせる様、トイレで排泄の継続が出来る様支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンの把握や水分補給・食物繊維の多く含んだ食事を提供、運動等を日課に取り入れた工夫を行っています。場合によっては主治医に報告し下剤調整もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせながら入浴時間を提供しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを作りながらその人に合った休息を取ってもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の把握に努め、服薬後の観察にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、簡単な調理の下ごしらえ・洗濯物干しや洗濯たたみ・手すり等の消毒等、分担した生活支援に努めています。		

グループホームさらさの杜(ユニット2 しおさい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機械はかなり減った状態の生活。ご家族の面会も制限していることもあるので、施設内での生活の工夫に努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と施設で管理しています。買い物等については、訴えがあった場合には職員が購入し本人に渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけてあげ、相手が出たら本人に渡すなど、電話で会話ができる支援に努めています。又、手紙についても内容は本人に書いてもらい、住所等宛名については職員が代筆する等の支援に努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは思い思いに過ごして頂く様にイスやソファを設置し、好きな場所で過ごせる様にしています。季節ごとに施設内を装飾し雰囲気づくりも行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも談話スペースを設け好きな時に好きな人と過ごせる様に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は使い慣れた物を持参して頂き、配置については本人の意向を確認しながら居心地良く過ごせる様にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで動線には手摺を設置している、トイレや浴室には分かり易く表札を用意し、自立した生活が送れるよう工夫しています。		